

研究分野のキーワード：理科教育学，諸外国（ドイツ）の科学教育，理科カリキュラム，化学教育

研究紹介

「理科教育」ではどんなことを研究するの？みなさんの中にも、こういった疑問を抱く人が多いのではないのでしょうか。これまで受けてきた理科の授業場面を切りとってみると、理科の教え方（指導法）や教材作りといったところが比較的イメージしやすいかもしれません。その他にも、理科を教える目的・目標、理科のカリキュラム（教える内容の選択や配列）、理科の評価方法、理科の歴史、諸外国の科学教育との比較等々、理科教育の研究領域は実に広範囲に及んでいます。

その中でも、私は次のようなテーマを中心に研究を進めています。

一つは、ドイツの科学教育に関する研究です。近年のドイツでは、OECD-PISA をはじめとする国際学力調査での成績不振を背景として、大規模な教育改革が展開されてきました。科学教育領域でも改革をめぐる様々な取り組みがなされており、そこにはどのような特徴があるのかについて調査しています。もちろん、ドイツと日本とは文化的・社会的環境が大きく異なるため、その差異に留意することが必要になりますが、日本の理科教育の改善に向けて、得られた知見を還元していくことを目指しています。

もう一つは、理科を学ぶ意義や有用性の認識促進に向けた指導法に関する研究です。子どもの「理科離れ」という言葉を最近よく耳にするとありますが、これに関連して、理科を学ぶことが大切で役に立つと思う、つまり理科学習の意義や有用性についての認識の低さが指摘されています。理科学習の意義の喪失は、学校教育のみならず成人後の科学学習にも影を落としかねない問題です。こうした状況を改善するため、主に欧州圏で広がりを見せる、日常生活や社会等の「文脈（コンテクスト）」を基盤としたアプローチから手がかりを得つつ、子どもたちの理科を学ぶ意義や有用性の認識を促進するような指導法や教材について検討しています。

理科教育をめぐる様々な事象について、自分自身で深く考え、アプローチしていくことを通して、理科教育研究の魅力を肌で感じてほしいと思っています。